

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|--------------|-------------|
| 事業所番号 | 4092600057 | | |
| 法人名 | 株式会社 小田コーポレーション | | |
| 事業所名 | グループホーム 真心 | | |
| 所在地 | 〒824-0026 福岡県行橋市道場寺1274番地1 | 0930-26-3030 | |
| 自己評価作成日 | 平成26年06月03日 | 評価結果確定日 | 平成26年08月19日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--------------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 | 093-582-0294 | |
| 訪問調査日 | 平成26年07月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なにか懐かしく思える温かみのあるホームです。室内の天井は吹き抜けて圧迫感がなく、ホールが広がって両側に部屋があります。戸を開けたらすぐ皆が集まれる様になっていて話に花が咲いています。苑では体操・行事・レクリエーション・制作活動等に楽しく参加出来るようスタッフ一同取り組みに頑張っています。外部のボランティアの方々から、入居者さまが明るくリノリで盛り上がってくれるので次回の訪問が楽しみですと言っていたいただいています。今年は苑庭に植えた桃や桜の花が咲きました。コーナーでは鶏が元気に卵を産んだり、今年は雌の子ヤギが来る予定です。入居者様も近隣の人も散歩の楽しみの一つになっています。スタッフ一同入居者様に対して思いやりを持ち、優しく笑顔で接していきます。

「真心」は、緑の草原に囲まれ、自然環境に恵まれた1ユニットのグループホームである。広い敷地の中を通り、ゆったりした造りのリビングルームでは、趣向を凝らした職員による、言葉遊びや、音楽レク、季節毎の作品作り等、利用者一人ひとりに合わせた一日が始まっている。敷地の一角で鶏と子山羊を飼育し、生みたての卵と、畑で採れる野菜や果物を使って作る料理と、毎月食事レクを同一法人の料亭の板長が、リビングルームで実演し(当日は鯉のたたき)利用者の食欲増進に繋げている。職員は、利用者のやる気と、残存能力を引き出し、季節毎の作品作りや、歌、体操等に取り組み、利用者の身体機能維持を目指し、着々と成果が出てきて、見守る家族からは、驚きと感謝の気持ちに包まれ、家族とホームの信頼関係を築き、一日一日を充実した暮らしの支援に取り組み「グループホーム 真心」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27) | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40) | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39) | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33) | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 介護理念を玄関に掲げ毎日朝礼で唱和している | ホームが目指す介護を明示した理念、「思いやりを持ち、優しく、笑顔で接します」をホールに掲示し、職員は毎朝唱和し、理念を理解し共有している。管理者は、言葉遣いに気を付け、常に基本に立ち返る事を職員に伝え、職員は、真心をこめて介護サービスを提供し、利用者との深い信頼関係を築いている。 | |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 自治会に参加している。又地域のお祭りの際は子供みこしに苑に来ていただいたり、地域の自主防災訓練に参加したりしています。今後の高齢化社会に向けて地域でどういう取り組みが出来るか必要かを検討するワークショップに参加して地元住民・行政との話し合いで勉強させてもらっています | 自治会に加入し、利用者と職員は地域の一人として、参加出来るような地域の行事に参加し、子ども神輿の訪問を毎年楽しみにしている。コスメイトの展示会に利用者の作品を出展したり、仲津校区のワークショップへの参加、ボランティアの受け入れ等、地域との交流が少しずつ広がっている。また、敷地内に鶏と子山羊を飼育し、近所の子供たちが良く遊びに訪れる開かれたホームである。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 民生委員さんに声かけていただいて地域の独居高齢者宅に安否確認のための、訪問ができるよう取り組みたいとおもっています | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催しています。地域の方、ご家族の方に、行政の方のご意見を参考に取組んでいます | 会議は、2ヶ月毎に定期的開催し、ホームの現状や取り組み、課題等を報告している。会議の中で、地域の独居高齢者の安否確認の取り組みについて、民生委員に協力を要請したり、行政から、今後の展開についてアドバイスを受ける等、充実した会議である。会議には毎回職員が2名ずつ司会と書記として交代で参加している。 | |
| 5 | 4 | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護保険課・生活支援課・高齢者相談支援センターにわからない事があった時はすぐに相談や確認をしています。行政をお願いして成年後見人制度の研修会を行っていただきました | 管理者は、疑問点や困難事例等を行政窓口にご相談し、行政主催のグループホーム情報交換会に参加する等、連携を図っている。成年後見制度の研修を行政にお願いしたり、運営推進会議に、行政職員や地域包括支援センター職員が参加し、ホームの運営や活動状況を把握した上で、アドバイスを貰う等、協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を一切行わない宣言をしています。昨年隙間からの転落防止の為にベッド柵4本使用しています。ご家族様に文書による説明承諾書と写真で場景がわかるように送付して行い、解除時も写真手紙を送ったり、その後も電話連絡等で状況報告をしています | 身体拘束廃止マニュアルを基に、勉強会を開催し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束が、利用者にも与える影響について、職員一人ひとりが理解し、具体的な事例を検証しながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、玄関の鍵は施錠せず、利用者が自由に出入り出来る環境を整えている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止マニュアルで勉強会をおこなっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 行政の開催の研修会に参加したり、勉強会を行い今後もレベルアップしていきます。 | 内部の研修会や行政主催の研修会で、職員は、権利擁護に関する制度について学び、この制度が、利用者や家族にとって重要な制度である事を理解している。資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、いつでもアドバイス出来る体制を整えている。現在は、制度を活用している利用者はいない。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に必ず十分な説明を行い、契約を交わしています | | |
| 10 | 7 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置して、家族や地域のかたが来苑した時に意見が出せるようにしています。家族が来苑された時に気軽に声かけ出来る雰囲気作りを行っています。又外部の方がお見えになった時や後日印象や感想を伺っています | 家族の面会や行事参加時に、職員が家族と話す機会をつくり、利用者の健康状態や日々の暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護計画に反映させている。また、月に1回の介護相談員を受け入れ、昨年8月には家族会を開催する等、本人や家族の思いや意見、要望の把握に努めている。 | |
| 11 | 8 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の定期的なスタッフミーティングを持ち、意見交換をしています。その意見を週1回の全体会議に持ち込みます | 毎月1回、全員参加で職員会議を開催し、勉強会やカンファレンスを兼ねた充実した会議となっている。「とにかく話してもらおう」事をモットーに、活発な意見が多く出されている。出された意見は、法人の全体会議に上げて検討し、業務改善やホーム運営に出来るだけ反映出来るように取り組んでいる。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的に自己評価や第三者評価を行い給与に反映しています | | |
| 13 | 9 | 人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用は年齢、性別、経験不問で採用しています。又採用時にはどのような思いで働くかを確認しています | 職員の募集は、人柄や介護に対する姿勢を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は、新人研修やスキルアップ研修で、職員の介護技術の向上を図り、職員の勤務体制や希望休に配慮し、働きやすい職場環境を目指している。また、職員一人ひとりが特技を活かし、生き生きと勤務出来るよう配慮している。 | |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 利用者一人ひとりの尊厳を守りながら、職員全員でケアの実践に取り組んでいます | 職員会議の中で、利用者の人権を守る介護のあり方について、職員間で話し合い、利用者一人ひとりに配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、職員は、常にホームの理念を意識し、「思いやりと笑顔」を絶やさず、介護サービスの提供に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部、外部の研修を定期的に行っています | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 2ヶ月毎に行橋市のグループホーム情報交換会に参加して意見・情報交換を行っています。又他のグループホームと管理者・職員が参加して懇談会や訪問診療の医師を招いての意見交換会を行っています | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には、必ず本人と面談を行い不安や要望を聞き生活支援に反映していくように取り組んでいます。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族から不安や要望を伺い、さらに困っていることがあれば、お聞きして生活支援に取り組んでいます | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の要望や、情報提供書等から何が必要かを把握してサービスに努めています | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様の出来ることで、食事の下準備、テーブル拭き、お盆ふき、食事の挨拶、洗濯物たたみ等をお手伝いして頂き、役割を担っていただいています。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 随時、家族と連絡を取り現状を報告して必要時は来苑をお願いしたり、こちらから訪問させていただいて関係を維持しています | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人が今まで使っていた物などを持ってきていただき、馴染みの方とお話したい時は電話等の支援をしています | 入居年数が長くなると、友人、知人の面会も少なくなるため、手紙や電話等利用し、連絡を取りながら、利用者が今まで築いてきた、馴染みの人や場所との関係が、継続出来るように取り組んでいる。また、入居後の、利用者同士の仲の良い関係や、職員との信頼関係も大切にして、日々の暮らしが充実したものになるよう支援している。 | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の意思も尊重しながら、食事時、お茶の時間、行事等に参加していただき、コミュニケーションをとっています | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所されても、不安や心配がないかご連絡させていただいています | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様からよく話を聞き何を望んでいるかを把握し、無理のないように対応しています | 職員は、毎日おやつ時間に、利用者の中に入って一緒に話す機会を持ち、会話の中で、利用者の色々な思いや意向が聴き取れるよう努めている。また、利用者の意向表出が困難な場合でも、職員は諦めず、利用者に寄り添い、話しかけ、少しでも思いに近づく努力をしている。 | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に、本人、家族等から生活歴や既往症、職歴、趣味、好き嫌い(食べ物)等を聞き、これまでの経過を把握できるようにしています | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活の中で入居者様のADL等の状態観察・様子観察をして現状把握に努めています | | |
| 28 | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族の意向やスタッフの意見、医師からの注意点を話し合い、現状に即した介護計画を作成しています | 利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で検討し、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を、入居時には3ヶ月毎、安定したら6ヶ月毎に作成している。また、常に家族とは連絡を取りながら、利用者の状態変化に合わせ、介護計画の見直しを図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のケアチェック表に実施出来ているかどうかや、また介護記録や支援経過等を参考に介護計画の見直しに活かしています | | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その日その時に応じて柔軟な対応しています | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問美容、訪問マッサージ等で地域交流をいかにしています。又地域のボランティアの方々がフラダンスやオカリナ、カラオケ等で交流して入居者様は楽しまれています | | |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族の方が受診援助出来る入居者様は家族の方にお願ひしています。家族が援助出来ない方には事業所のほうで受診援助行っています。又訪問診療は月2回の往診があります | 利用者や家族の希望を優先し、家族に、かかりつけ医の受診をお願いしているが、家族が行かない時は職員が受診同行している。常に受診結果を報告し、利用者の医療情報の共有を図っている。また、月2回の往診体制を協力医療機関と取り決め、看護師と連絡を密にしながら、利用者の健康管理体制は充実している。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | かかりつけの病院の看護師と連携しながら情報提供をして、適切な受診が受けられるようにしています | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者様が入院された時は管理者やスタッフが面会に行ったりしています。又ケアマネジャーは面会時に看護師や相談員に会って情報交換や退院日程などの連携を取り合っています | | |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化になった場合と看取りについての同意書をかわっています | 契約時に、利用者や家族にターミナルケアについて説明し、理解を得た上で同意書を頂いている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医の意見を聴き、今後の方針を確認し、職員全員で共有し、利用者の重度化や終末期に向けて取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------------------|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に勉強会や訓練を行い備えています | | |
| 37 | 16 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防訓練を行っています。昨年11月末にスプリンクラー設置工事が完了しています | 毎年2回、消防署の指導を得て防災訓練を実施し、通報装置や消火器の使用方法の確認と、利用者を安全に避難場所へ誘導する体制の確立を目指し、真剣に取り組んでいる。夜勤のみの職員も数名いるため、夜勤者1名で9人の利用者を全員避難場所に避難させる訓練を実施している。また、非常用持ち出し袋も準備している。 | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ゆっくり優しく声かけし本人のプライドを尊重しています | 職員は、利用者のプライバシーを確保するための介護のあり方を職員同士で話し合い、大きな声や、あからさまな対応に気をつけて、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護に取り組んでいる。また、利用者の個人記録は、鍵のかかるロッカーで保管し、職員の守秘義務についても、周知が図られている。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個別で話を伺い、本人の意思を尊重しています | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎日個々の性格・心身の状況に合った生活を支援しています | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日本人の好きな服を着て頂き、整容も行っていきます又化粧をする方はして頂いています。 | | |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 月1回の食事レクレーション又はおやつレクレーション時に下準備をして頂いたり、年末の餅つきでは餅を丸めてもらったりしてお手伝いをして下さっています。日頃はお盆拭き、テーブル拭き等出来ることをしてくださっています。今年の5月はバイキング形式で入居者様の要望で豚足を提供しております。好評でした。 | 月に1回の食レクに力を入れている。法人内和食屋の店長が利用者の食べたい物を聞きながら、旬の食材を使って、利用者の目の前で一品作るパフォーマンス、先月は鰻、今月は鯉のたたきで、利用者は料亭の味に舌鼓をうち、大喜びであった。利用者の状態に合わせて、ミキサー食、刻み食等、一つ一つ丁寧に提供している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量・食事量・体重等をチェックして、主治医の指示を受けて個々に応じた分量にしています | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っています。スタッフがチェックして磨き残しがあれば、もう少し磨くよう促し、又一部介助で行っています | | |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿・排便チェック表をつけてパターンを把握しています。また随時トイレ誘導の声かけし失敗やパットの数を減らすように支援しています | 職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声かけやさりげない誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。現在、オムツ外しに取り組み、パットを併用する事で、オムツの使用軽減にも繋げている。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適度の水分摂取と運動を促しています | | |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本は週3回の入浴を行っています。希望や必要性のある時は随時対応しています | 入浴は、週3回を基本としているが、利用者の希望で毎日入ることも可能である。利用者の健康状態に配慮し、拒否される場合は、無理強いせず、清拭や足浴で補っている。また、入浴時は、利用者と職員が1対1でゆっくり話ができる機会でもあり、利用者と職員が信頼関係をつくる大切な時間でもある。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その人その人にあった状態や状況にあわせて休んで頂いています | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬管理は施設でおこなっています。又常に状態変化に気をつけ様子観察をおこなっています | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご本人の出来ることでお盆拭き、テーブル拭き、洗濯物たたみ、お茶の袋詰め、食事の下準備等を手伝って頂き張り合いのある日々を又、行事やレクレーション、体操、散歩等に参加して気分転換が出来るように支援しています | | |
| 51 | 21 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的または随時外出をしており、家族の協力で美容院やゆめタウンに出かけています | 自然に囲まれた草原の中にあるホーム周辺の散歩を日課とし、敷地内で飼育している鶏や子山羊を見に行くなど、気分転換を図っている。また、家族の協力を得て、馴染みの美容院や買い物と一緒に掛けて、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。 | |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人がお財布を持っている場合は希望があれば買い物や外食援助を行っています | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は申し出があった場合は自由にいただいています。かかってきた時はご本人に取り次いでいます。又手紙についても支援します | | |
| 54 | 22 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天井は吹き抜けて圧迫感を感じさせない空間です。又天窓からは程よい日差しと風が入ってきます。広い庭には桃や桜の木を植えました。コーナーには鶏が飼われています。子ヤギも飼う予定です | 広い敷地の中に桃や桜の木を植樹し、鶏や山羊を飼育し、利用者も外に出てほっとする風景である。室内の吹き抜けて広々とした空間には、利用者が作った貼り絵や塗り絵の作品や楽しそうな暮らしぶりを写した写真を掲示し、季節感、生活感のある、温かで家庭的な雰囲気である。リビングでは、利用者と職員が楽しそうに歌やリズム体操に取り組み、笑い声の溢れる共用空間である。 | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間、食堂が兼用になっており、ソファも設置し好きな場所でくつろいで頂いています | | |
| 56 | 23 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の今まで使っていたものや、好きな物、馴染みの物を持ってきて頂き使用してもらっています | 利用者が長年使い慣れた家具や好みの物を、家族と相談しながらレイアウトしてもらっている。利用者が、安心して穏やかに日々の暮らしが送れるよう、清潔で居心地の良い居室である。 | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 玄関入ったらバリアフリーになっており、ホール、浴室、トイレ等も手摺りをつけて安全になっています。ホールの両側に居室がありスタッフの目が行き届きやすいです | | |